



OHARA

2018年10月期～2020年10月期 中期経営計画

OHARA VISION 2020 &BEYOND



CONTENTS

1 中期経営計画の振り返り

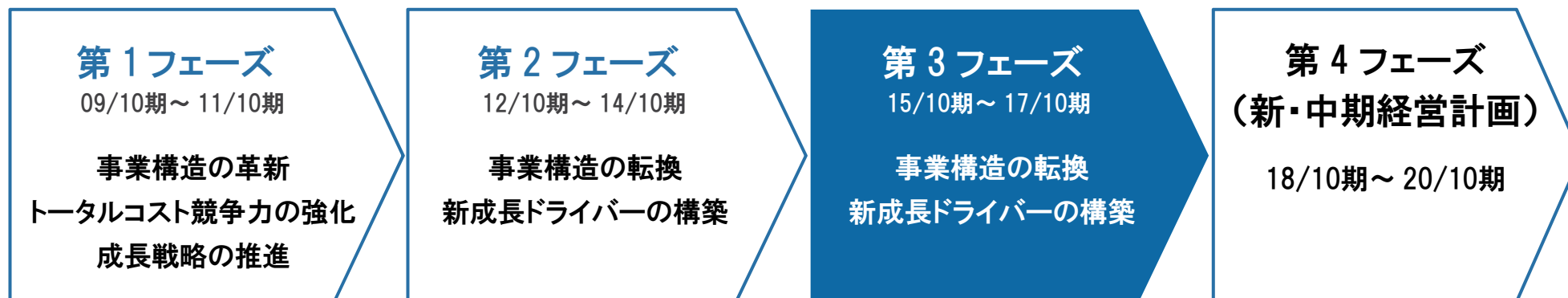
- 成果と課題
- 業績推移
- 経営指標の達成状況

2 新・中期経営計画

- 位置づけ
- 目標（18/10期～20/10期）
- 戦略【マーケティング機能の強化】
- 光事業の方針
- エレクトロニクス事業の方針
- 計画定量値
- 経営指標

ビジョンステートメント

お客様とともに技術を革新する「夢実現企業」



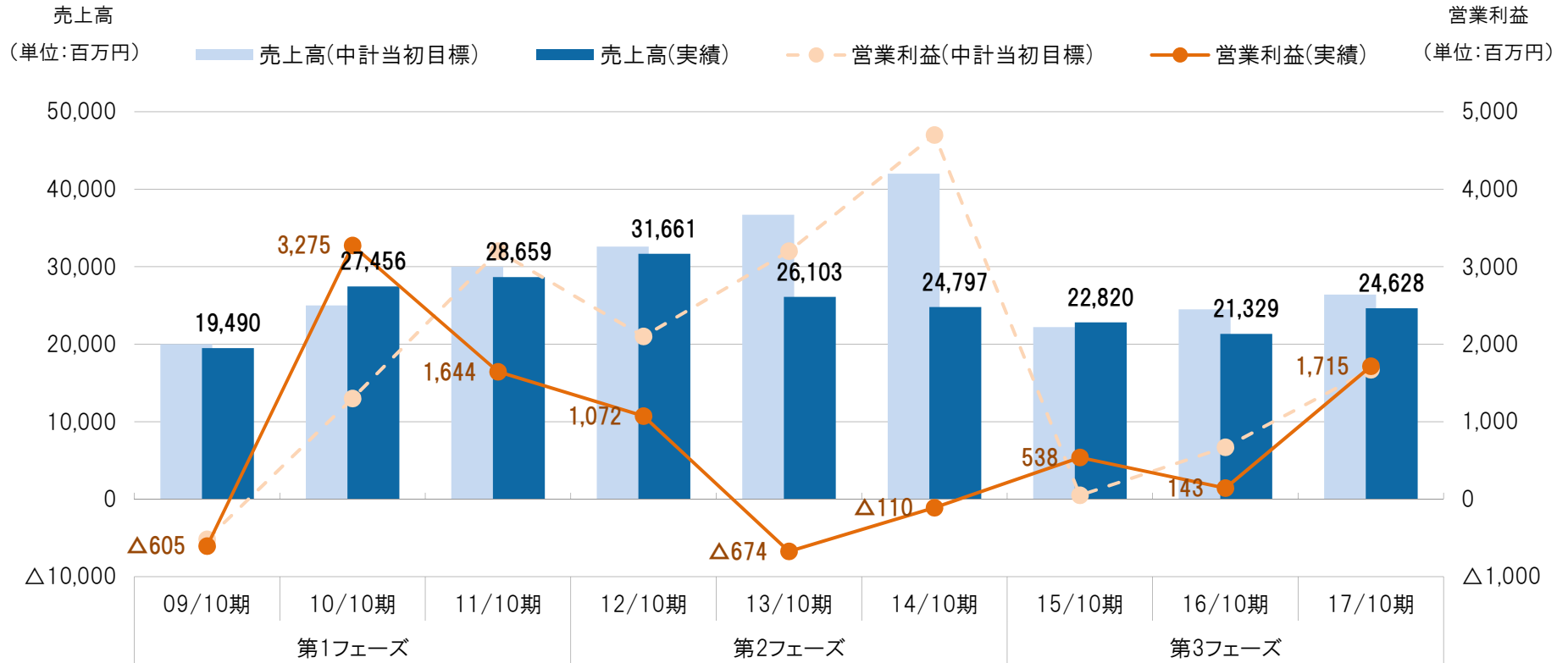
主要成果

- 生産設備最適化による収益性向上
- 耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス「ナノセラム™」の上市
- リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス「LICGC™」の認知度向上

残課題

- 新事業立ち上げの遅れ
- 事業構造の転換は未達

業績推移



※14/10期は、子会社決算期の統一に伴い、子会社の9-10月業績を取り込んでおります

デジタルカメラ市場及びHDD市場の縮小に伴い、収益性低下傾向

16/10期から17/10期に掛け、FPD露光装置、半導体露光装置、光通信など関連市場が活発化。生産設備最適化の成果もあり業績回復

経営指標の達成状況

経営指標(17/10期)

	当初目標 (2014年12月公表)	修正目標 (2015年12月公表)	実績
売上高	260億円以上	240億円以上	246億円
営業利益	16億円以上	10億円以上	17億円
総資産経常利益率(ROA)	—	2.0%以上	4.3%
総資産有利子負債比率	15.0%以下	12.0%以下	10.1%
エレクトロニクス事業 売上高比率	30.0%以上	30.0%以上	37.7%

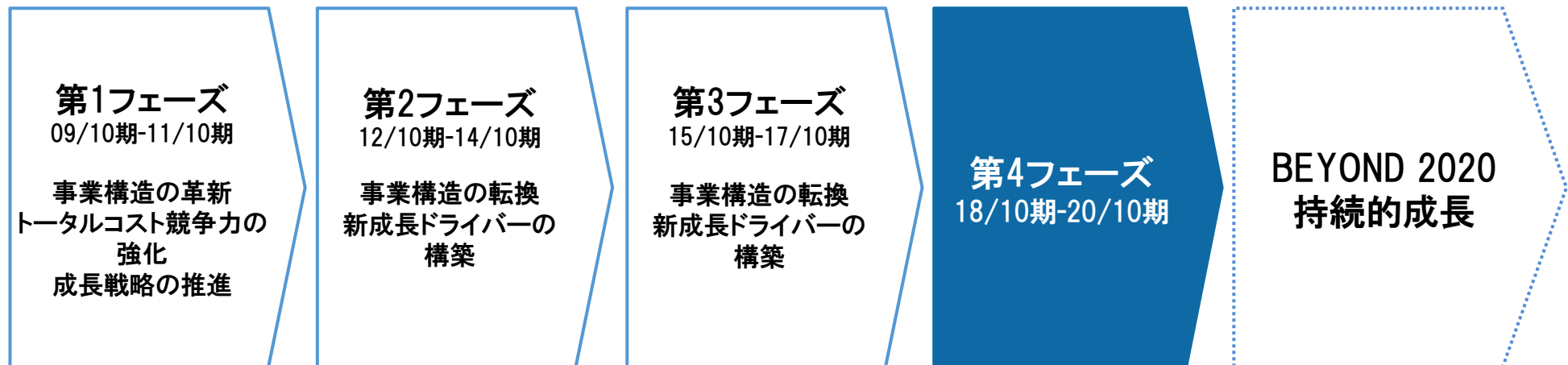


2

新・中期経営計画

(2018年10月期～2020年10月期)

OHARA VISION 2020 & BEYOND



2020年以降の“飛躍”へ向け、自社の強みを発信し、潜在ニーズを形にすることで
強い事業基盤をつくる

再成長軌道への回帰

モバイル・モビリティ市場への貢献

素材のオハラからマテリアル＋ソリューションのオハラへ

ガラスを**熔解**する会社から

お客様の困り事を**熔**かして**解**決する会社へ

サプライヤーとして「素材」をご提供することにとどまらず、素材の力で製品やサービスに新しい価値を見出し、お客様の課題や悩み事を解決する企業を目指します。

長年培ってきたガラス素材の研究や製造技術を新しい分野へ応用することで、素材メーカーだからこそ提案できるソリューションを提供してまいります。

モバイル・モビリティ市場へのアプローチ

MMB推進プロジェクトの発足

【全社横断型 新市場共創の場】 (MMB…Mobile Mobility Battery)



スマートフォン

カバーガラス ガラス筐体 レンズカバー

車載カメラ

ガラスモールドレンズ・レンズ加工品
車載カメラ向け光学ガラス

バッテリー

正極向け添加材
固体電解質

顧客へのソリューション提供を通じて、 新たな光学ガラス需要を取り込む

ガラスモールドレンズ・レンズ加工品の拡販／高付加価値製品へのシフト

- ガラスモールドレンズは、設備投資を実施。高難度品に特化しアピール
- 研磨レンズは、サプライチェーンを確立し、顧客対応力を強化

新硝材ラインアップ強化

- 車載カメラ、監視カメラなど、成長分野のハイエンド光学機器に訴求する新製品のタイムリーな供給
- 顧客の低コストニーズにマッチする新製品のタイムリーな供給

原価低減と業務効率化

- 原料費削減、歩留まり向上の取り組み強化
- グループ内サプライチェーンの最適化

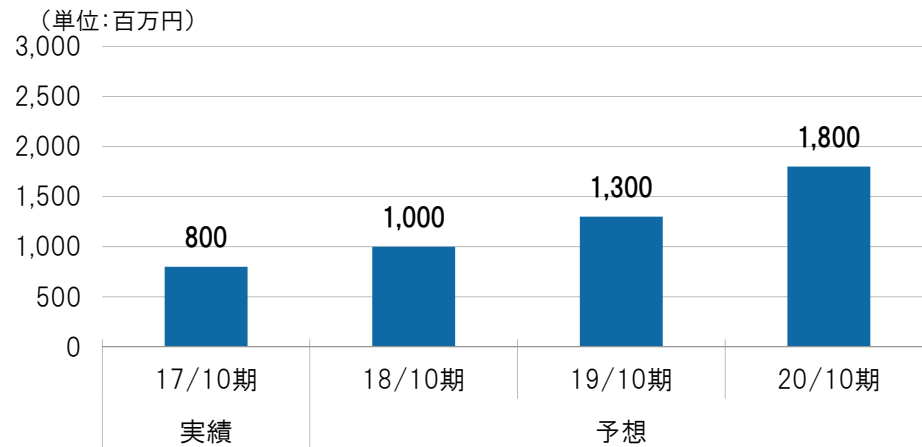
トピックス:車載カメラ向け光学ガラスのラインアップ拡充

目標 拡大する車載カメラ市場の取り込み

車載カメラ向け光学ガラス新製品を積極投入

先進運転支援システム (ADAS) や自動運転技術の向上に伴い、車載カメラ向け光学ガラスに対する技術要求が増加

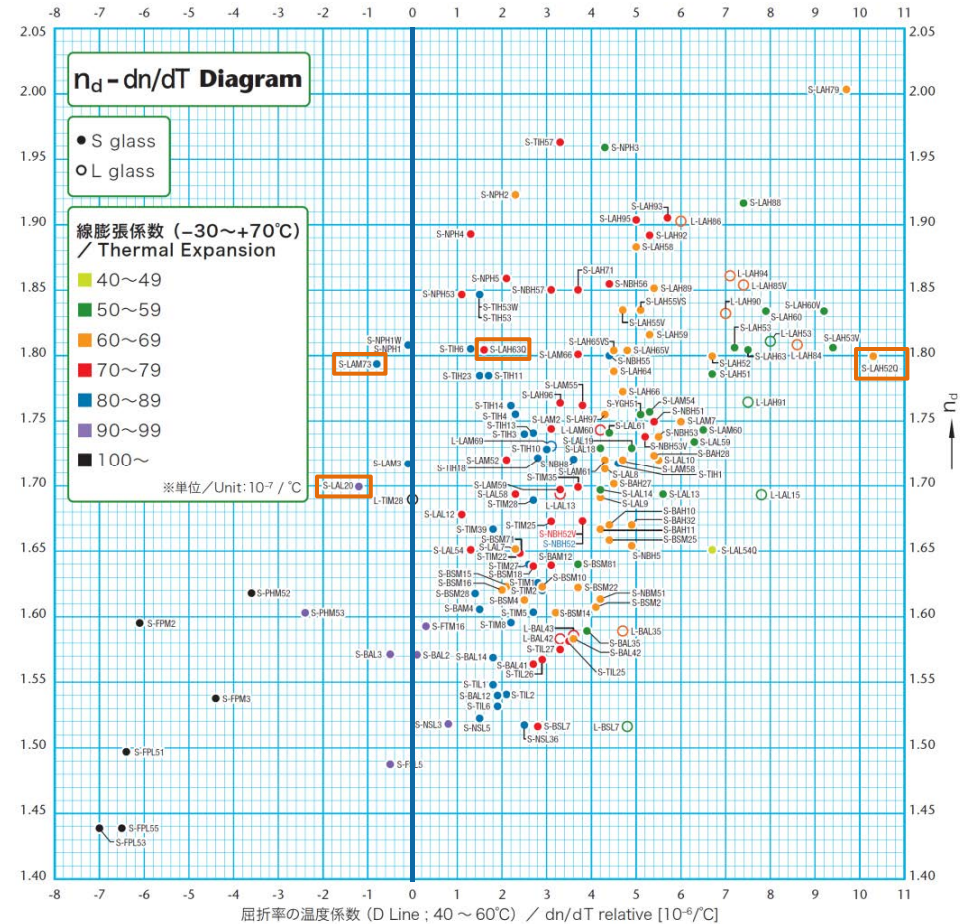
光学ガラス新製品の売上高目標



※車載カメラ向け以外の新製品も含む

屈折率の温度係数dn/dTとは

屈折率の温度の影響による変化量を示す。右図においては、温度が1℃変化した場合における屈折率の変化度合いを横軸に示しており、0が変化なし、プラスが屈折率上昇、マイナスが屈折率低下となる



特異なdn/dTを有する新製品

トピックス: 完品レンズ「GMo(ガラスモールドオプティクス)」の加速

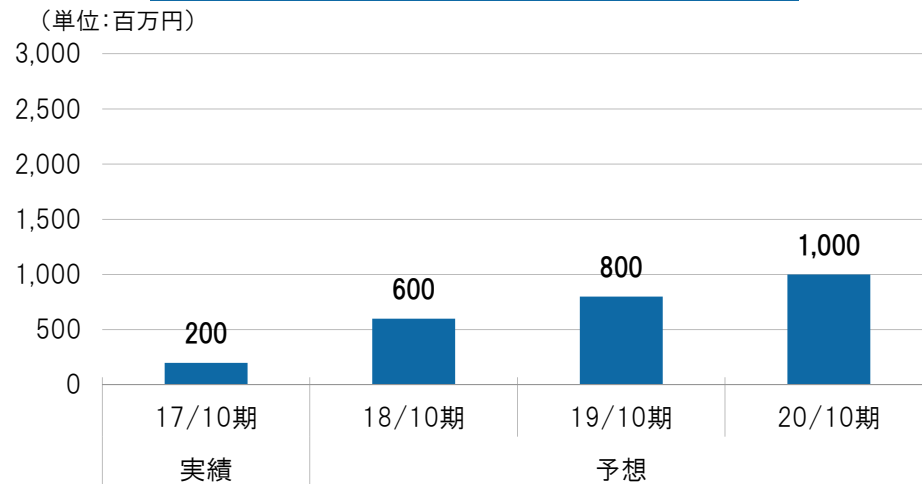
戦略 9億円を投じて工場を新設、完品レンズの安定供給を通じて、収益性を向上

素材メーカーから完品レンズメーカーへ

ハイエンド光学機器向け
中・大口径GMoのニーズが増加、
当社技術力で、光学機器の性能向上に貢献

- 高解像度、高感度、軽量など、光学機器の性能向上を背景に、高難度完品レンズの需要は拡大傾向
- オハラでは、約10年前からGMoの事業化を推進、今回、設備投資を行うことで、製造効率を向上させ、拡大する需要に対応する

GMoの売上高目標



GMo

GMo(ガラスモールドオプティクス)とは

「GMo」は、精密金型を用いた成型によるレンズ加工技術であり、従来一般的な研磨によるレンズ加工に比して、非球面など複雑な形状のレンズを製造できる。一方、極めて高精度な金型が必要になるなど、加工難易度は高く、特に中・大口径レンズの安定生産は困難

最先端素材に特化、 ナノセラム™、LICGC™を育成

極低膨張ガラスセラミックス、高均質光学ガラス及び光通信用ガラス素材

- FPD露光装置、宇宙・天文向けは、精密用途で更なる拡販活動を実施
- 半導体露光装置、光通信関連製品は安定生産、競合材の参入を許さない顧客対応力の向上

耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス「ナノセラム™」

- スマートフォンのカバーガラス向け量産開始、筐体向けガラス開発
- モバイル、モビリティほか用途展開による更なる売上、利益向上

リチウムイオンバッテリー(LB)

- 次世代電池研究開発分野でのスタンダード材ポジションを維持・拡大。また、特殊用途向け金属リチウム空気電池需要を確保
- 液系リチウムイオン電池の特性向上用添加材としての拡販活動実施
- 全固体電池は実用レベルの特性実現とサプライチェーン構築

トピックス：耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス「ナノセラム™」進捗

目標 スマートフォン本体向けに拡販を進め、ビジネスとして確立

17/10期立ち上げ遅れの反省を踏まえ、着実な成長を目指す

アクセサリ向けで実績を積み上げつつ、スマートフォン本体向けの拡販に注力、19/10期以降の本格業績寄与を目指す

- 強度に対する顧客評価は引き続き高い一方、スマートフォンのカバーガラス向けは、既に強固なサプライチェーンがあり、新規参入に苦戦。革新的技術の採用に熱心な顧客に集中し拡販実施
- 18/10期までは、液晶保護ガラスフィルムなどアクセサリ向け中心。19/10期までに、スマートフォン本体向けのサプライチェーンを確立する

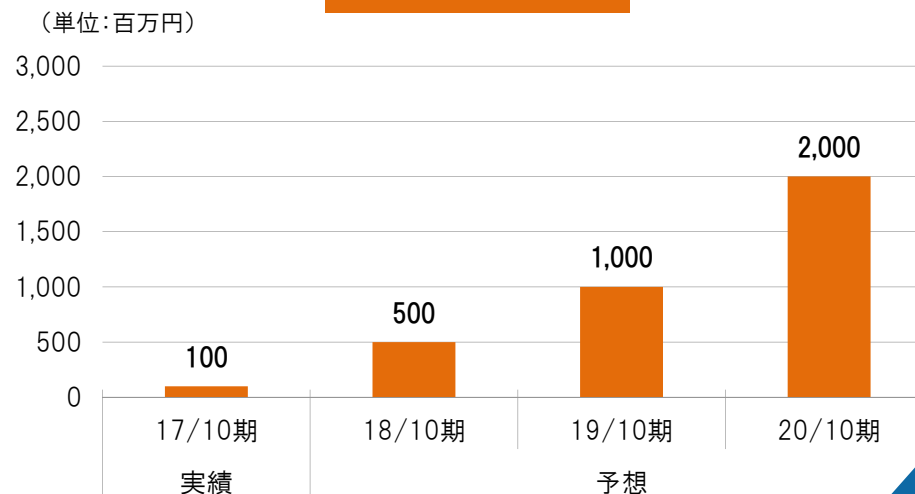
「ナノセラム™」とは

ガラス中に硬い結晶を析出させることで、ガラスの透明度を維持しつつ強度を高めた、透明で硬い材料。サファイアガラスの高価格と難加工性、化学強化ガラスの強度不安定を解消する夢の新素材



「ナノセラム™」着色品

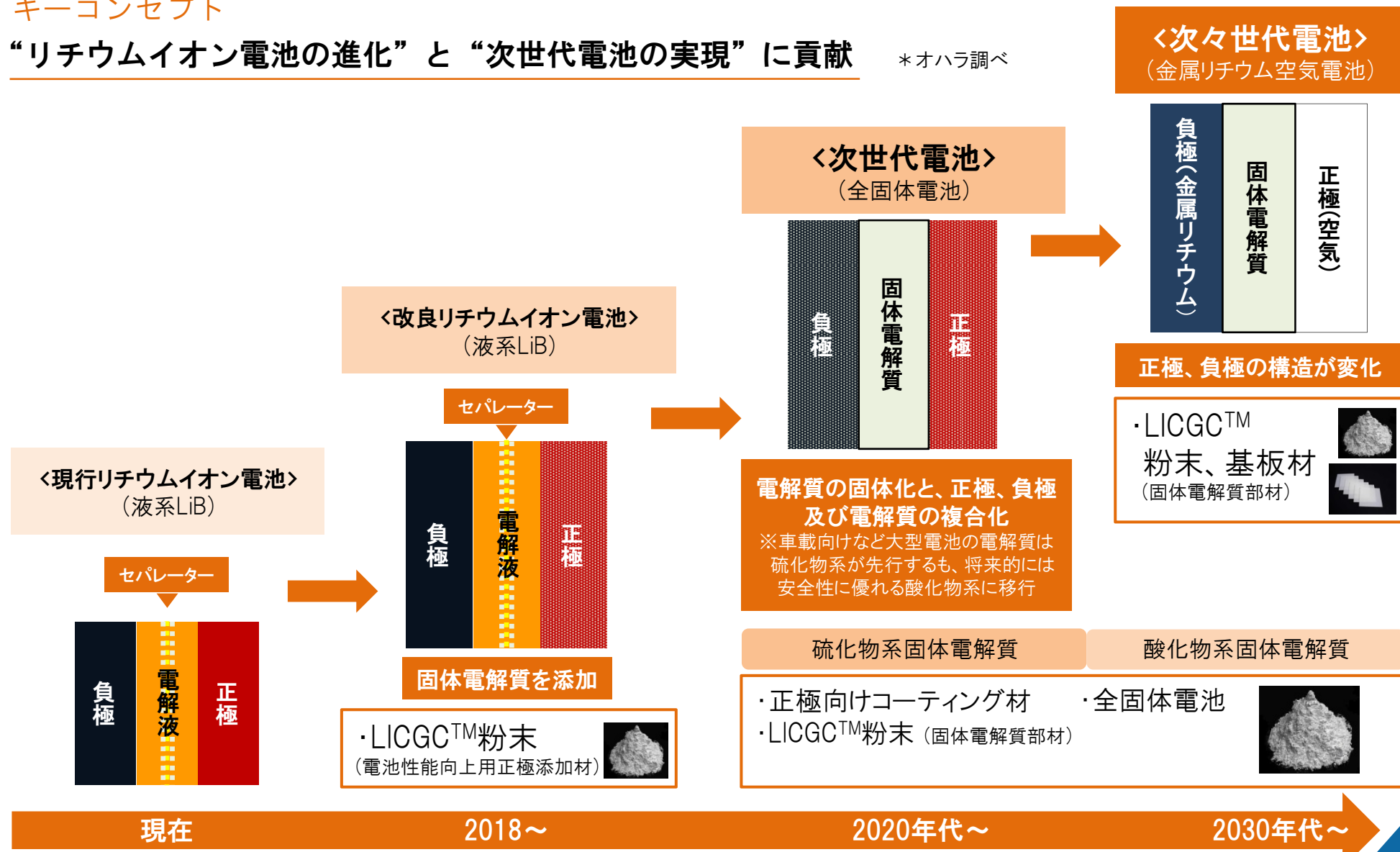
売上高目標



トピックス:リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス「LICGC™」事業開発

キーコンセプト

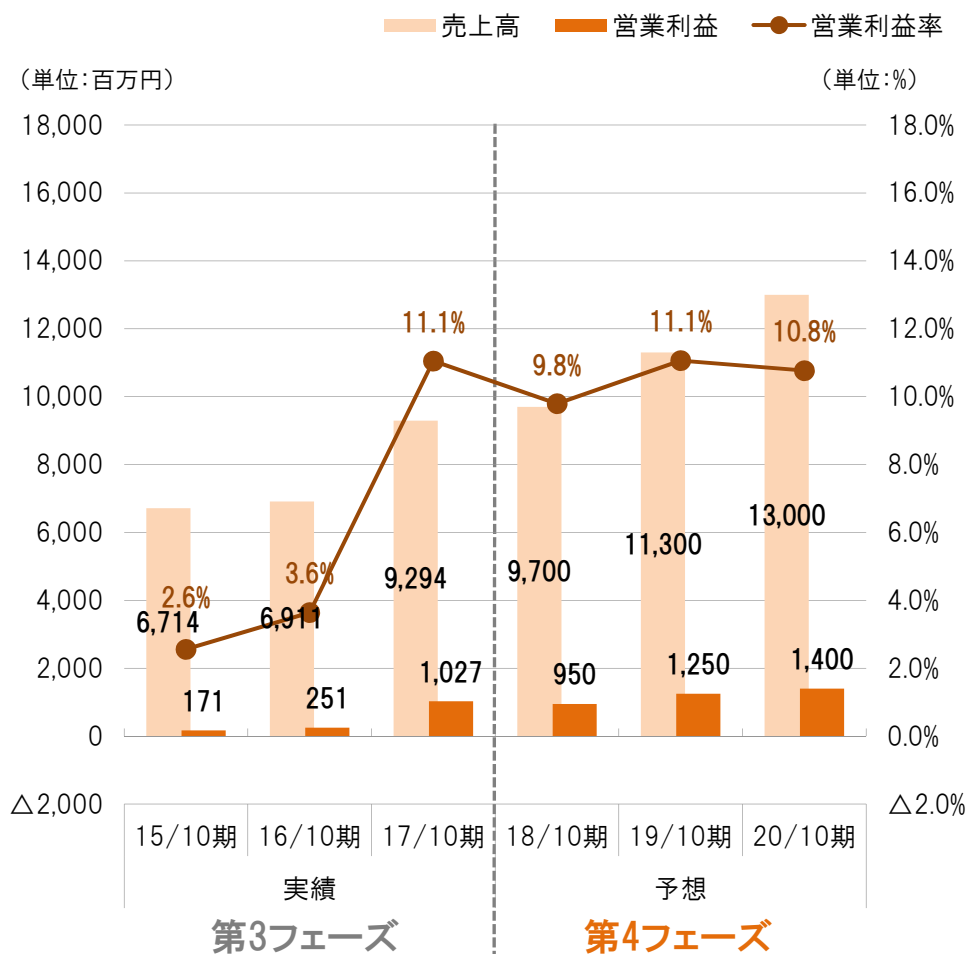
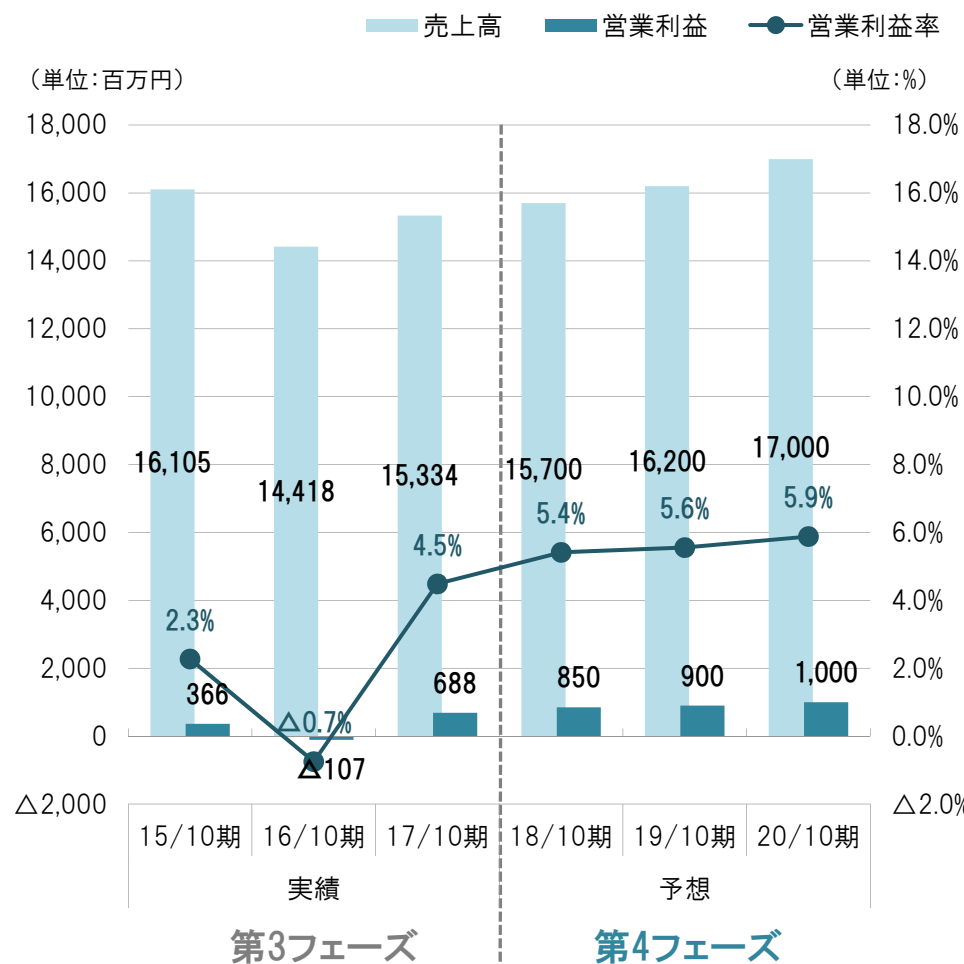
“リチウムイオン電池の進化”と“次世代電池の実現”に貢献 *オハラ調べ



事業別計画定量値 18/10期～20/10期

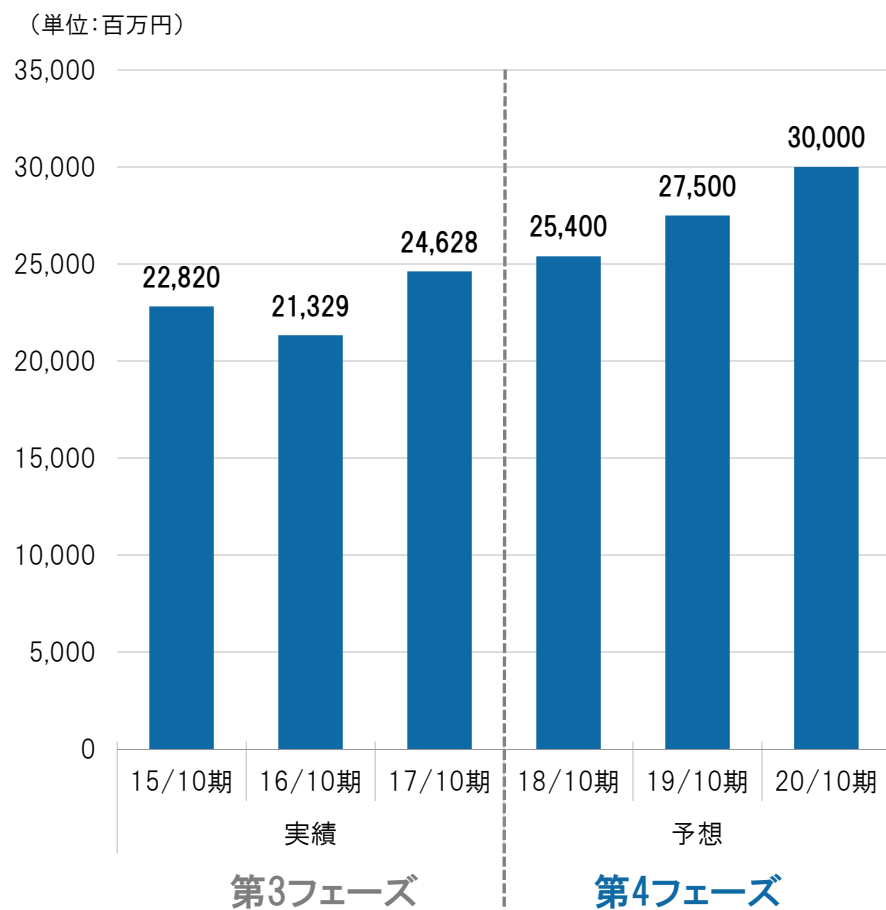
光事業

エレクトロニクス事業

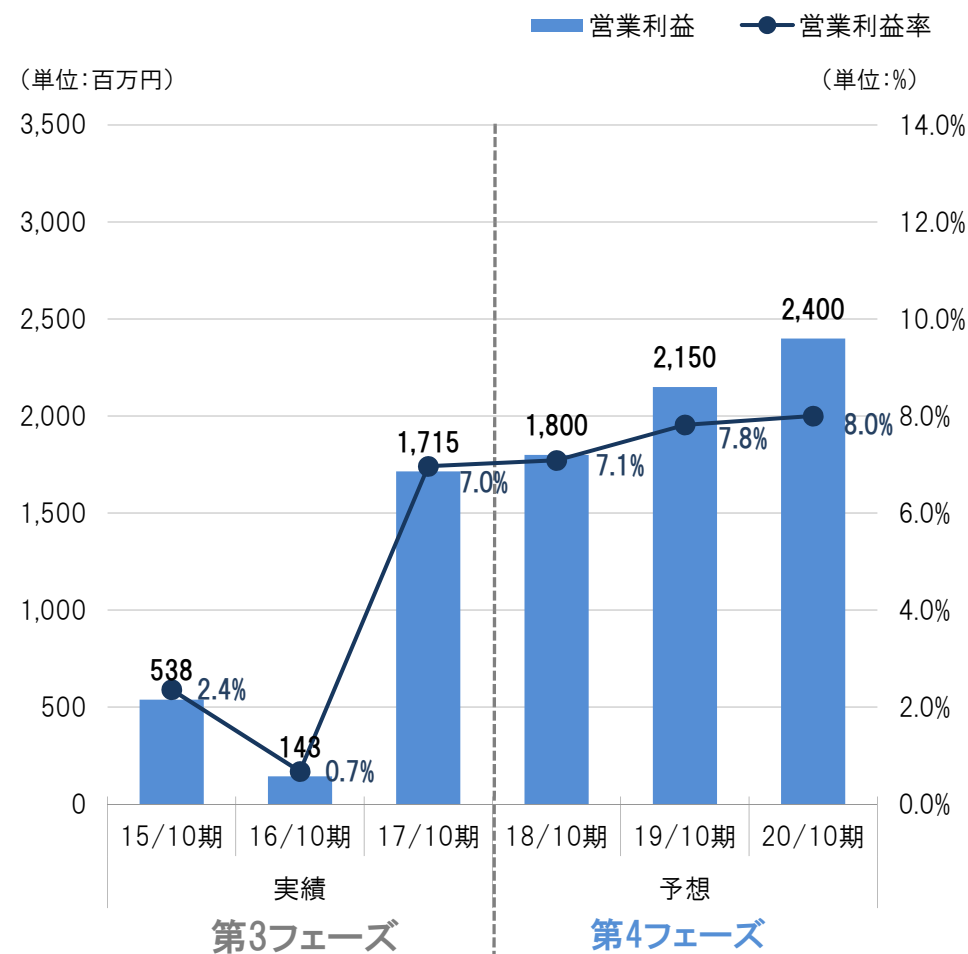


計画定量値 18/10期～20/10期

売上高



営業利益



	直近実績(17/10 期)	目標(20/10 期)
売上高	246億円	300億円以上
営業利益	17億円	24億円以上
自己資本利益率(ROE)	3.9%	5.0%以上
総資産有利子負債比率	10.1%	8.0%以下
エレクトロニクス事業 売上高比率	37.7%	40.0%以上

前提条件

米ドル 110 円、ユーロ 120 円

■光事業の関連市場

- ・デジタルカメラ市場は、ミラーレス機などの需要増により堅調に推移
- ・プロジェクター、監視カメラ、車載カメラなどの分野では、技術革新に伴い高品質な光学ガラスの需要が拡大

■エレクトロニクス事業の関連市場

- ・半導体露光装置、FPD露光装置及び光通信関連機器の需要は引き続き好調に推移
- ・宇宙関連産業も拡大見込み



ビジョンステートメント

われわれは、人と社会の未来創造へ貢献する高い志と変革への実行力を持ち、
光とエレクトロニクス、環境・エネルギーの分野において、
最高品質の先進素材を世界中に提供することで、
お客様とともに技術を革新する「夢実現企業」となる。

- ◆ 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ◆ ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- ◆ この資料の著作権は株式会社オハラに帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。